令和８年度
牛込二中だより
【第8号】

発行日　令和８年11月９日
発行　新宿区立牛込第二中学校
校長　小 泉 雅 一
Web　https://www.shinjuku.ed.jp/jh-ushigome2

【教育目標】　自ら学び、考え、行動する人　　思いやりと責任感のある人　　健康で心豊かな人

今の仲間とだからこそ創り上げられたもの

令和８年10月24日(土)に開催した学芸発表会では、生徒たちの生き生きとした姿が随所に見られました。仲間と力を合わせ、一つのものを創り上げようとする姿から、これまでの取組の積み重ねが感じられる一日となりました。みなさんの素晴らしい活躍ぶりを見て、ぜひ伝えたいと思ったことがあります。当日は、直接お話しすることが出来ませんでしたので、この紙面を借りて、私の思いを伝えたいと思います。

学芸発表会の価値は、発表の出来栄えや審査結果だけで決まるものではありません。

これまで、準備や練習を重ね、お互いの考えを伝え合う中で、時には意見がぶつかり、思うように進まないこともあったと思います。それでも、仲間と向き合い、工夫を重ねながら一つの目標に向かって取り組んできたことに、大きな意味があります。そして、何より大切にしたいのは、「今の仲間だからこそ創り上げられた」という事実です。

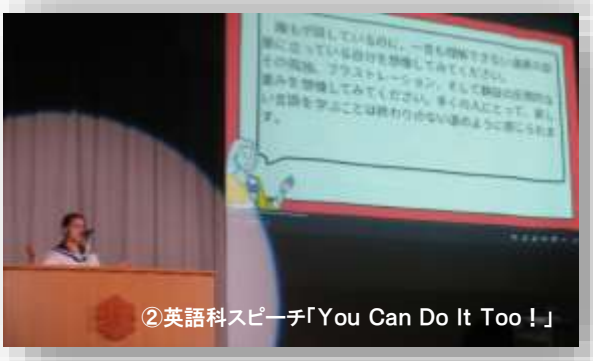
同じ学級、同じ学年で過ごす仲間との出会いは、いくつもの偶然が重なったものです。そして、そこに集う一人ひとりは、個性も考え方も、得意なことも苦手なことも違います。そんな唯一無二のみなさんが、お互いに関わり合いながら創り上げたものだからこそ、今回の学芸発表会には特別な価値があるのだと思います。その価値を生み出したのは、ほかでもないみなさんです。本当に素晴らしい!!

みなさんの中には、リーダーシップを発揮することが得意な人もいれば、目立たないところで仲間を支える人もいます。自分の思いを積極的に表現できる人もいれば、表現することに難しさを感じる人もいます。そして、忘れないでほしいのは、様々な事情や思いから、今回の学芸発表会に参加することがかなわなかった仲間の存在です。

行事に参加できたかどうか、何かの役割を果たせたかどうかだけで、その人の価値が決まるわけではありません。学校に来ることができた日も、来ることができなかった日も、大切な仲間であることに変わりはありません。ここ牛二中では、学校に来られないことを、単に努力や意欲の問


①合唱コンクール


②英語科スピーチ「学校紹介」


②英語科スピーチ「You Can Do It Too！」


③１年総合発表
「女神湖移動教室」


④２年総合発表
「校外学習　ー都内めぐりー」

題として捉えるのではなく、一人一人が抱える思いや事情にも心を寄せていきたいと考えています。

何かができるから価値があるのでも、誰かの役に立つから存在する意味があるのでもありません。その人が、その人として存在していること自体に、掛け替えのない価値があるのです。舞台に立った人も、仲間を支えた人も、その場にいることができなかった人も、誰もが今の学級、今の学年を形づくる大切な一人なのです。学芸発表会を振り返ることが、共に過ごす仲間の存在を、改めて見つめるきっかけになればと思います。

自分も、そして隣にいる仲間も、今は離れた場所にいる仲間も、誰にも代わることのできない大切な存在であること。そのことを忘れずに、これからもお互いを認め合い、それぞれの違いや思いを尊重しながら、学校生活を過ごしてほしいと願っています。

今の仲間とだからこそ創り上げられた、掛け替えのない一日。本当にありがとう!!

遅くなりましたが、ご来場いただきました保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。生徒たちの発表に温かい眼差しと拍手をお寄せいただき、ありがとうございました。これからも、一人ひとりがそれぞれの歩みを重ねていく姿を、ご家庭や地域の皆様と共に、大切に見守っていきたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。







社会の現場でも、輝く２年生！





令和８年11月４日(水)から６日(金)の３日間、地域の事業所の皆様のご協力のもと、２年生は職場体験学習を実施しました。

全ての事業所を訪問することはできませんでしたが、どの訪問先でも、生徒たちがまさに「即戦力」として生き生きと活躍する姿を見ることができました。あるスーパーマーケットでは、思わず従業員の方と見間違えてしまうほど、一人で黙々と商品の品出しに取り組む生徒の姿も見られました。

働くことには、やりがいや喜びがある一方で、責任や苦労も伴います。また、私たちの暮らしは、様々な仕事に携わる多くの人々によって支えられています。

今回の体験を通して、働くことの意義や大変さを実感するとともに、自分も将来、社会を構成し、支える一人になるのだという意識を育んでほしいと願っています。

ご多用の中、生徒たちを温かく受け入れ、ご指導くださった各事業所の皆様に、心より感謝申し上げます。